

[成果情報名] ヒノキきゅう果に形成される果樹カメムシ類の口針鞘数を指標とした果樹カメムシ類のミカンへの飛来予測

[要約] 果樹カメムシ類が餌として利用できるヒノキきゅう果は、吸汁によって形成される口針鞘数約 25 本 / 果までのきゅう果であり、25 本 / 果を越えると離脱し、ミカン園へ飛来する。この口針鞘数を利用してカメムシのミカン園への飛来が予測できる。

[キーワード] 果樹カメムシ類、ヒノキきゅう果、口針鞘、ミカン

[担当] 長崎果樹試・病害虫科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール s00660@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 普及

[背景・ねらい]

果樹カメムシ類はヒノキきゅう果を餌として増殖するが、きゅう果が餌として不適になるとヒノキを離脱し、新たな餌を求めて移動する。この際、ミカン園へも飛来・侵入し、被害を与える。このためカメムシがヒノキから離脱する時期の予測は防除対策上極めて重要である。そこでヒノキきゅう果に形成される口針鞘数とカメムシの離脱、さらにミカンの被害との関係を明らかに、ヒノキきゅう果上の口針鞘数を指標とした予察法を開発する。

[成果の内容・特徴]

- 1 . ヒノキきゅう果の口針鞘数が 25 本 / 果の頃に、ヒノキきゅう果上の成虫はピークに達し、その後減少する。25 本 / 果が餌として利用できる限度であると推察される (図 2)。
- 2 . ヒノキきゅう果の口針鞘数が 25 本 / 果の頃に、ミカン果実の口針鞘はみられ始める (図 3)。口針鞘数を利用してカメムシのミカン園への飛来が予測できる。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 果樹カメムシ類新世代成虫のミカン園への飛来予測に活用できる。
- 2 . ヒノキきゅう果はミカン園とヒノキが混在する地域の 2 ~ 3 カ所から、それぞれ 5 樹を選び 1 カ所につき 20 果を採集する。採集したヒノキきゅう果は冷凍庫で凍結後、電子レンジで解凍 (1 ~ 3 分) し、実体顕微鏡下で口針鞘数を調査する。

[具体的データ]



図1 ヒノキきゅう果とチャバネアオカメムシ幼虫

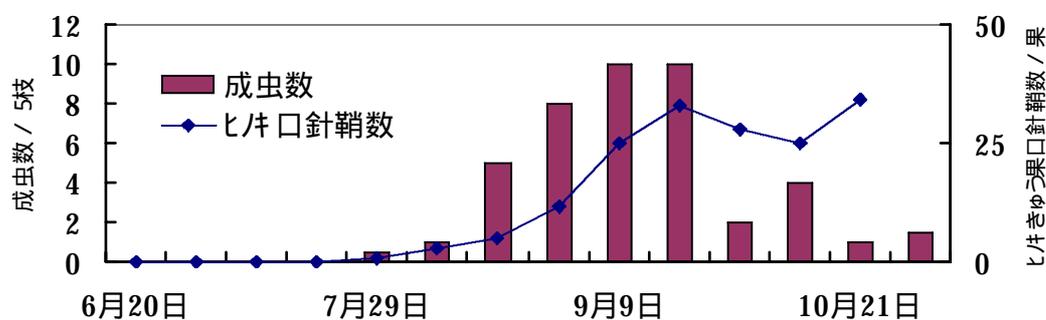


図2 ヒノキ上の成虫数と口針鞘数の推移(2003年)

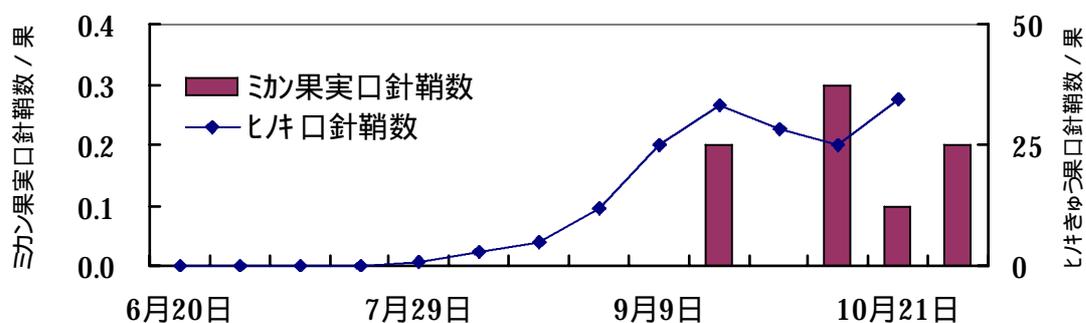


図3 ミカン果実の口針鞘数とヒノキ口針鞘数の推移(2003年)

[その他]

研究課題名：果樹カメムシの発生予察効率化

予算区分：国庫

研究期間：2001～2004年度

研究担当者：早田栄一郎、中村吉秀、宮崎俊英